

今日のトピック

インド準備銀行が今年2度目の緊急利下げ

ポイント1 政策金利は7.50%へ

1月に続き、今年2度目の緊急利下げ

■3月4日、インド準備銀行(中央銀行、以下RBI)は、政策金利のレポレート¹を0.25%引き下げ7.50%とすることを発表しました。

■RBIは、2月3日の定例会合で政策金利を据え置いていましたが、それに先立つ1月15日に緊急利下げを実施しており、今回の利下げも予想外のタイミングになりました。

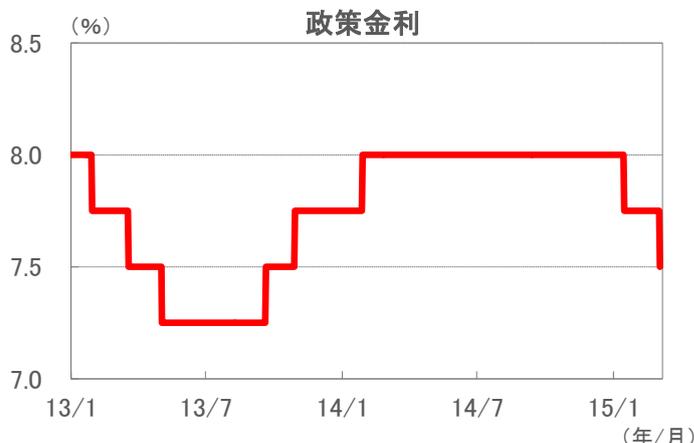
ポイント2 RBIは政府予算案を評価

基調的な物価の落ち着きに自信

■声明文でRBIは、政府が来年度予算案(2015年4月~2016年3月、2月28日発表)で示したインフラ整備の拡大などを評価しました。RBIは、物流などの供給面の改善は、中長期的に物価の基調を抑えることにつながると見込んでいます。

■1月の物価上昇率は前年同月比+5.1%と物価目標を大幅に下回りました。RBIは、その背景として、指数の基準改定や食品価格の低下以外に、基調的な物価の落ち着きもあると分析しました。

■景気に力強さを欠く状況下、RBIの物価目標に政府が正式に同意したこともあり、定例の政策見直し(次回予定は4月7日)を待たず、迅速に利下げすることが適切と判断したと見られます。



(注)データは2013年1月1日~2015年3月4日。

(出所) Bloomberg L.P.のデータを基に三井住友アセットマネジメント作成



(注)データ期間は2013年1月~2015年1月。

2015年1月は新ベースの消費者物価指数(基準年と品目変更)。

物価目標はインド準備銀行(RBI)による。

(出所) Bloomberg L.P.、RBIのデータを基に三井住友アセットマネジメント作成

今後の展開 RBIは、データや情勢を見極めながら、柔軟に金融政策を見直す姿勢

■RBIは、これまでと同様に、経済データ、金融情勢、財政の健全化などを見極めながら、金融政策の見直しを柔軟に実施する姿勢です。

■RBIは特に、インフラや電力供給の改善を通じた物価の安定化、財政健全化、利下げの波及効果、天候、国際金融情勢などを注視する方針です。

■利下げは、インドルピーの下落要因ですが、企業の投資や消費者の購買活動を後押しし、内需を下支えする要因です。景気拡大への期待が高まれば、ルピーの下落を抑えると思われます。

■日銀の強力な金融緩和傾向もあり、対円でルピーは底堅い推移が続くと見込まれます。

ここもチェック!

2015年03月04日 **インドの2015年度「国家予算案」(インド)**

2015年02月26日 **最近の指標から見るインド経済(2015年2月)**

■当資料は、情報提供を目的として、三井住友アセットマネジメントが作成したものです。特定の投資信託、生命保険、株式、債券等の売買を推奨・勧誘するものではありません。■当資料に基づいて取られた投資行動の結果については、当社は責任を負いません。■当資料の内容は作成基準日現在のものであり、将来予告なく変更されることがあります。■当資料に市場環境等についてのデータ・分析等が含まれる場合、それらは過去の実績及び将来の予想であり、今後の市場環境等を保証するものではありません。■当資料は当社が信頼性が高いと判断した情報等に基づき作成しておりますが、その正確性・完全性を保証するものではありません。■当資料にインデックス・統計資料等が記載される場合、それらの知的所有権その他の一切の権利は、その発行者および許諾者に帰属します。■当資料に掲載されている写真がある場合、写真はイメージであり、本文とは関係ない場合があります。